

第1回 鬼怒川・小貝川有識者会議での主な意見

【目標設定】

- 将来予測（人口、土地利用等）を計画の中でどう考えているのか。具体には、農業利水の変化の見通し等。

【鬼怒川河床低下】

- 河床低下及び環境の変化について、原因も含めて示してほしい。
- 河床低下は上流ダムによって土砂供給が減少したことも要因のひとつである。
- 河床低下対策として設置する床止については、魚類の移動や産卵場所等にも配慮する必要がある。

【治水】

- 利根川本川との治水バランスを明確に数値で示し、整備メニューを説明する必要がある。
- 鬼怒川、小貝川とも河道内の樹林化や植生の変化が課題であり、治水と環境の両面から整理することが必要。

【利水】

- 利水の課題についての記述と原因分析を行うことが必要。
- 健全な水循環をより広域的に捉え、鬼怒川、小貝川、利根川、霞ヶ浦の河川間の連携を考えて欲しい。小貝川の課題解決に向けては、水源の手当の検討が必要ではないか。

【環境】

- 流域下水道の整備の進捗による今後の小貝川の水質の監視が必要である。
- 鬼怒川の礫河原が減少した原因として推定されることを示してほしい。
- ダムによる洪水調節によって、河川の攪乱が抑制されたことも環境変化の要因と考えられる。
- 環境対策は点ではなく、線でお願いしたい。
- 鬼怒川と小貝川の環境の違いについて強調する必要がある。
- 鬼怒川の天然遡上鮎復活に向けた対応を水系として捉えていって欲しい。また、効果検証も必要。
- 周辺環境との連続性、上下流の連続性、本支川の連続性について考慮してほしい。

【住民との連携】

- 河川の維持管理には住民との協働が重要であり、具体的な取り組み等について積極的な働きかけが必要。また、ゴミ対策以外のことも記述して欲しい。
- 一般の方からハザードマップの見方がよく分からないと言われているので、防災教育が必要。また、近年の水害において、高齢者が避難できなかったという実態を踏まえコミュニティの再構築も重要。